

I 利用者のために

1 調査の概要

(1) 調査の目的

徳島県人口移動調査は、国勢調査の実施から次の国勢調査の実施までの間の人口及び世帯数を推計し、併せて、人口及びその移動状況を年齢別に集計することにより、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査の概要

徳島県統計調査条例（昭和25年徳島県条例40号）

徳島県人口移動調査要綱

(3) 調査の期間

毎月1日から末

(4) 調査の対象

住民基本台帳法及び外国人登録法の規定に基づき移動のあった者、並びに移動のあった世帯（同一市町村の転居を除く）

(5) 調査事項

ア 出生・死亡

イ 転入者（従前の住所地別）

ウ 転出者（転出先別）

エ 世帯の移動

オ 年齢別転入・転出・死亡者

2 調査結果の表章について

人口と世帯数は平成10年1月1日現在における数値で、移動状況は、平成9年1月から12月までの1年間の数値をまとめたものである。

なお、この数値は国勢調査結果を基礎数値とし、住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく移動状況を加減して推計したものである。

3 転入・転出者数について

転入者総数・転出者総数には、それぞれ職権記載（移動元を伴わない転入）・職権削除（移動先を伴わない転出）が含まれており、県外の転入者数と県内の転入者数の合計及び県外の転出者数と県内の転出者数の合計とは一致しないことがある。

また、県内の転入者及び転出者数の合計は、理論的には同数であるが、各市町村での転出届と転入届の受理日に時間的なずれが生じ、年間の転入者数と転出者数は一致しないことがある。

4 補正值について

国勢調査結果を基礎数値として、毎月の移動状況を各歳別に集計する課程で誤差が生じ、人口がマイナスになる場合があるので、補正值を設けて表示を「-」としている。

(1) 0歳の人数+・・・+100歳の人数+年齢不詳=総数+補正值

(2) [例] 90歳に補正があった場合

県計の90歳の人数+補正值≠徳島市の90歳の人数+鳴門市の90歳の人数+・・・+西祖谷山村の90歳の人数

(3) 補正があった場合、各年齢の人数の合計は、3区分人口と合わない。

5 用語の説明

(1) 出生児・・・戸籍法の規定に基づく出生届により、住民票の記載をした者。

外国人登録法の規定に基づく新規登録申請のうち、出生により登録原票に登録した者。

(2) 死亡者・・・戸籍法の規定に基づく死亡届または失踪宣告届により住民票の削除をした者。

外国人登録法の規定に基づき、死亡によって登録原票を閉鎖した者。

(3) 転入者・・・住民基本台帳法の規定に基づく転入届により、住民票の記載をした者。

外国人登録法の規定に基づき居住地変更登録を行った、県内地市町村及び他都道府県からの転入者。

外国人登録法の規定に基づく新規登録申請のうち、入国により登録原票に登録した者。

(4) 転出者・・・住民基本台帳法の規定に基づく転出届により、住民票の削除をした者。

外国人登録法の規定に基づき新居住地の市町村長へ登録原票を送付した者。

外国人登録法の規定に基づく出国によって登録証明書を返納し、登録原票を閉鎖した者。

(5) その他の用語・比率等

$$\text{ア 人口増加率(\%)} = \frac{\text{平成10年1月1日現在人口} - \text{平成9年1月1日現在人口}}{\text{平成9年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{イ 出生率(\%)} = \frac{\text{平成9年1月～12月間の出生児数}}{\text{平成9年1月1日現在人口}} \times 1,000$$

$$\text{ウ 死亡率(\%)} = \frac{\text{平成9年1月～12月間の死亡者数}}{\text{平成9年1月1日現在人口}} \times 1,000$$

$$\text{エ 自然増加率(\%)} = \frac{\text{平成9年間の出生児数} - \text{平成9年間の死亡者数}}{\text{平成9年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{オ 転入率}(\%) = \frac{\text{平成9年1月～12月間の転入者数}}{\text{平成9年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{カ 転出率}(\%) = \frac{\text{平成9年1月～12月間の転出者数}}{\text{平成9年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{キ 社会増加率}(\%) = \frac{\text{平成9年間の転入者数} - \text{平成9年間の転出者数}}{\text{平成9年1月1日現在人口}} \times 100$$

$$\text{ク 従属人口指数}(\%) = \frac{\text{0～14歳人口} + \text{65歳以上人口}}{\text{15～64歳人口}} \times 100$$

$$\text{ケ 年少人口指数}(\%) = \frac{\text{0～14歳人口}}{\text{15～64歳人口}} \times 100$$

$$\text{コ 老年人口指数}(\%) = \frac{\text{65歳以上人口}}{\text{15～64歳人口}} \times 100$$

$$\text{サ 老年化指数}(\%) = \frac{\text{65歳以上人口}}{\text{0～14歳人口}} \times 100$$

$$\text{シ 平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口}}{\text{総人口}} + 0.5$$

(6) 統計表中の符号

- ア 「0.0」、「0.00」・・・表章単位に満たないもの。
- イ 「-」・・・零または該当数値のないもの。
- ウ 「***」・・・不詳（数字が得られないもの）
- エ 「△」・・・減少

(7) 都道府県を次のブロックに分ける

- ・ 北海道ブロック・・・北海道
- ・ 東北ブロック・・・青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- ・ 関東ブロック・・・茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
- ・ 中部ブロック・・・新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
- ・ 近畿ブロック・・・三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- ・ 中国ブロック・・・鳥取、島根、岡山、広島、山口
- ・ 四国ブロック・・・香川、愛媛、高知、（徳島）
- ・ 九州ブロック・・・福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

Ⅱ 調査結果の概要

1 総人口

(1) 人口の推移

徳島県の平成10年1月1日現在推計人口は、832,269人（男395,374人、女436,895人）となっている。（表1）

本県の人口は、昭和25年国勢調査において878,511人となり、最高の人口を記録した。

昭和30年代に入ると、人口は減少しはじめ、昭和48年をボトムとして、再び増加しはじめ、昭和63年にはピークをむかえ、その後、減少を続けていた。しかし、平成8年以降は増加に転じたが、本年1月1日では再び83万2千人台に微減した。

表 1 人口の推移

（単位：人，％）

区 分	総 人 口	対前年増加率	男	女
昭和57年	827,871	0.21	397,036	430,835
58	829,234	0.16	397,432	431,802
59	830,452	0.15	397,651	432,801
60	831,756	0.16	397,854	433,902
61	835,675	0.47	400,025	435,650
62	835,799	0.01	399,776	436,023
63	836,132	0.04	399,728	436,404
64	835,916	△0.03	399,395	436,521
平成 2	834,716	△0.14	398,469	436,247
3	831,758	△0.35	395,933	435,825
4	831,002	△0.09	394,956	436,046
5	830,195	△0.10	394,281	435,914
6	830,079	△0.14	394,119	435,960
7	829,772	△0.04	393,930	435,842
8	832,741	0.36	395,839	436,902
9	833,009	0.03	395,904	437,105
10	832,269	△0.09	395,374	436,895

注) 各年1月1日現在である。

(2) 人口の分布

総人口に占める市部人口をみると、435,976人で、総人口の52.4%を占めており、増加傾向がみられる。

なかでも、徳島市は全体の32.4%を占め、毎年県人口に占めるウエイトは増加している。(表2)

表 2 市 郡 別 人 口

(単位：人、%)

区 分	平成6年	7 年	8 年	9 年	10 年	
	人 口	人 口	人 口	人 口	人 口	総人口に占める割合
県 計	830,079	829,772	832,741	833,009	832,269	100.0
市 計	431,784	431,881	434,903	435,585	435,976	52.4
徳 島 市	265,632	265,988	269,110	269,655	269,796	32.4
鳴 門 市	64,890	64,737	64,827	65,026	65,323	7.9
小松島市	43,232	43,295	43,348	43,475	43,353	5.2
阿 南 市	58,030	57,861	57,618	57,429	57,504	6.9
郡 計	398,295	397,891	397,838	397,424	396,293	47.6
勝 浦 郡	9,353	9,303	9,343	9,296	9,181	1.1
名 東 郡	3,301	3,251	3,235	3,203	3,199	0.4
名 西 郡	34,396	34,282	34,053	34,005	33,933	4.1
那 賀 郡	34,319	34,271	34,407	34,405	34,373	4.1
海 部 郡	29,176	28,818	28,499	28,193	27,872	3.3
板 野 郡	103,150	104,364	105,437	106,408	107,157	12.9
阿 波 郡	25,932	25,916	25,732	25,651	25,651	3.1
麻 植 郡	48,461	48,526	48,394	48,279	47,998	5.8
美 馬 郡	53,283	52,780	52,681	52,255	51,616	6.2
三 好 郡	56,744	56,380	56,057	55,729	55,313	6.6

注) 各年1月1日現在である。

(3) 年齢 3 区分別人口

平成 10 年 1 月 1 日現在の人口を年齢 3 区分別みると、0～14 歳の年少人口は、125,731 人、15～64 歳の生産年齢人口は 537,005 人、65 歳以上の老年人口は 169,007 人で、県人口に占める割合は、それぞれ 15.1%、64.5%、20.3% となっている。（表 3）

また、昨年と比べると年少人口は 0.4% ポイント（3,026 人）、生産年齢人口は 0.3 ポイント（3,029 人）減少しており、逆に老年人口は 0.6 ポイント（5,315 人）増加している。これは、高齢化が進行していることを示しており、平均年齢も 42.6 歳となり、昨年より 0.3 歳高くなっている。

表 3 市郡別年齢 3 区分別人口及び割合

（単位：人、％）

区 分	人 口			割 合		
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
県 計	125,731	537,005	169,007	15.1	64.5	20.3
市 計	66,054	291,678	77,827	15.2	66.9	17.9
徳島市	41,163	183,547	44,705	15.3	68.0	16.6
鳴門市	9,571	42,637	13,084	14.7	65.3	20.0
小松島市	6,570	28,549	8,232	15.2	65.9	19.0
阿南市	8,750	36,945	11,806	15.2	64.2	20.5
郡 計	59,677	245,327	91,180	15.1	61.9	23.0
勝浦郡	1,162	5,292	2,727	12.7	57.6	29.7
名東郡	392	1,904	903	12.3	59.5	28.2
名西郡	4,774	21,220	7,939	14.1	62.5	23.4
那賀郡	5,316	21,149	7,888	15.5	61.5	22.9
海部郡	3,779	16,079	8,014	13.6	57.7	28.8
板野郡	17,716	72,313	17,088	16.5	67.5	15.9
阿波郡	3,755	15,853	6,043	14.6	61.8	23.6
麻植郡	7,028	29,591	11,330	14.6	61.7	23.6
美馬郡	7,353	30,390	13,873	14.2	58.9	26.9
三好郡	8,402	31,536	15,375	15.2	57.0	27.8

注) 平成 10 年 1 月 1 日現在である。

年齢は平成 10 年 1 月 1 日現在で計算している。

2 人口動態

人口動態は、出生・死亡の自然動態と、転入・転出による社会動態に区分することができる。

自然動態をみると、平成9年は、出生児数7,202人、死亡者数7,765人で、差引563人の減少となり、平成6年から4年続いたの自然減となっている。

出生率・死亡率の推移をみると、死亡率は年により変動があるものの、昭和63年以来わずかながら上昇傾向であるのに対し、出生率は長期的に低下傾向にある。

(表4・図1)

社会動態をみると、長く転出超過傾向が続いていたが、地域人口の移動の鎮静化に伴い、近年ではわずかな転出超となり、平成7年、8年の2年間は転入超過となっていたが、平成9年は再びわずかではあるが転出超過となった。

表4 人口動態の推移

(単位：人)

区 分	自 然 動 態			社 会 動 態			増減合計
	出 生	死 亡	増 減	転 入	転 出	増 減	
昭和56年	10,383	6,790	3,593	36,860	38,734	△1,874	1,719
57	10,192	6,656	3,536	37,499	39,672	△2,173	1,363
58	10,256	6,853	3,403	36,883	39,068	△2,185	1,218
59	9,967	6,638	3,329	35,759	37,784	△2,025	1,304
60	9,395	6,770	2,625	33,737	38,775	△5,038	△2,413
61	9,122	6,726	2,396	33,214	35,486	△2,272	124
62	8,623	6,523	2,100	33,442	35,209	△1,767	333
63	8,672	6,891	1,781	33,163	35,160	△1,997	△ 216
平成元	8,080	6,902	1,178	33,238	35,616	△2,378	△1,200
2	8,002	7,282	720	33,982	36,158	△2,176	△1,456
3	7,743	6,973	770	33,245	34,771	△1,526	△ 756
4	7,502	7,250	252	33,336	34,395	△1,059	△ 807
5	7,416	7,225	191	33,760	34,067	△ 307	△ 116
6	7,412	7,514	△ 102	34,471	34,676	△ 205	△ 307
7	7,518	7,641	△ 123	35,101	34,194	907	784
8	7,384	7,601	△ 217	34,966	34,481	485	268
9	7,202	7,765	△ 563	34,878	35,055	△ 177	△ 740

注) 各年1月～12月の合計である。

図1 出生率・死亡率の推移

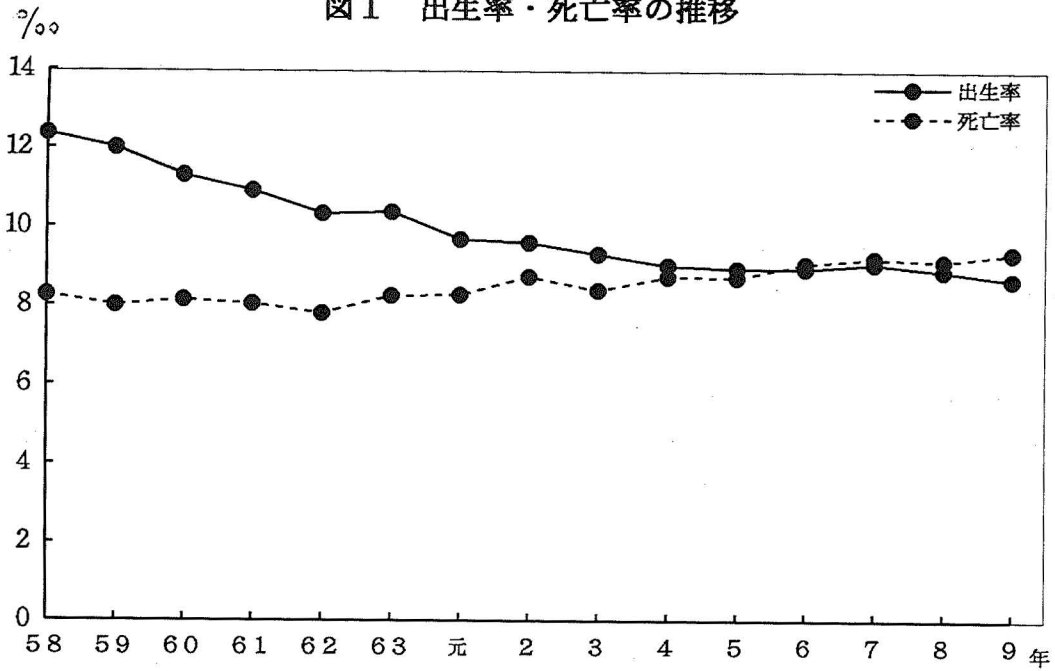
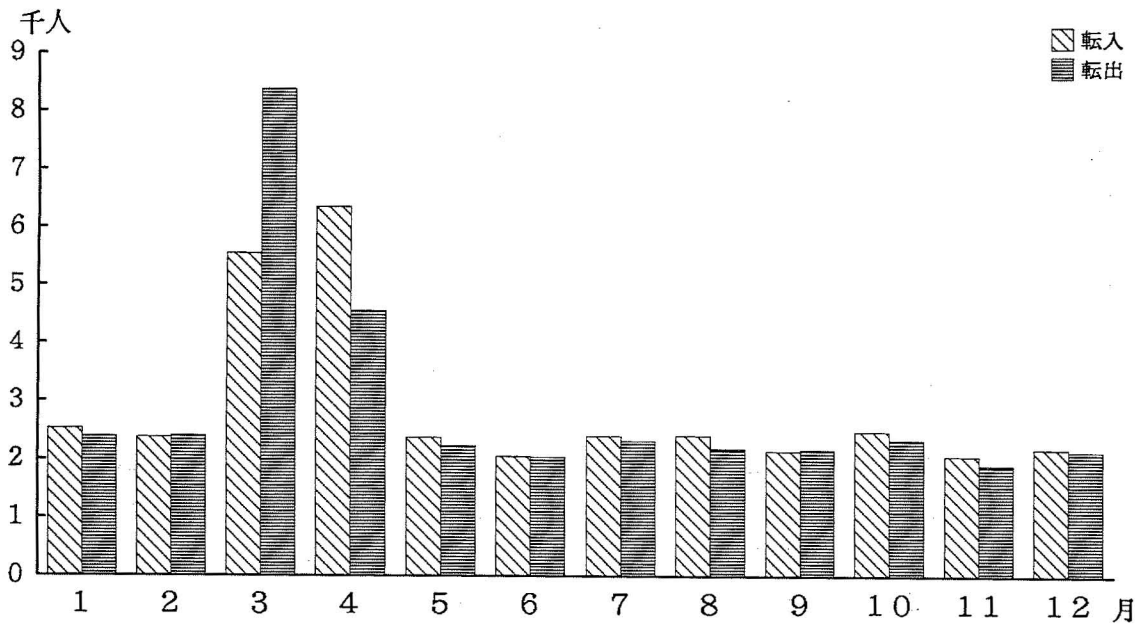


図2 月別転入・転出状況 (平成9年)



(2) 年齢階級別・ブロック別移動状況

転入・転出の状況を年齢階級別にみると、転入者数、転出者数ともに20～24歳で最も多くなっている。また、転入者数と転出者数の差が最も大きい年齢階級は15～19歳で1,049人の転出超過になっている。(図3)

県外転出状況をブロック別で見ると、近畿ブロックが最も多く全体の29.0%を占めており、次いで四国(徳島を除く)ブロック27.6%、関東ブロック15.8%となっている。(図4)

なお、年齢階級別転入・転出状況の推移をみたものが(表5)である。

図3 5歳階級別移動状況（平成9年）

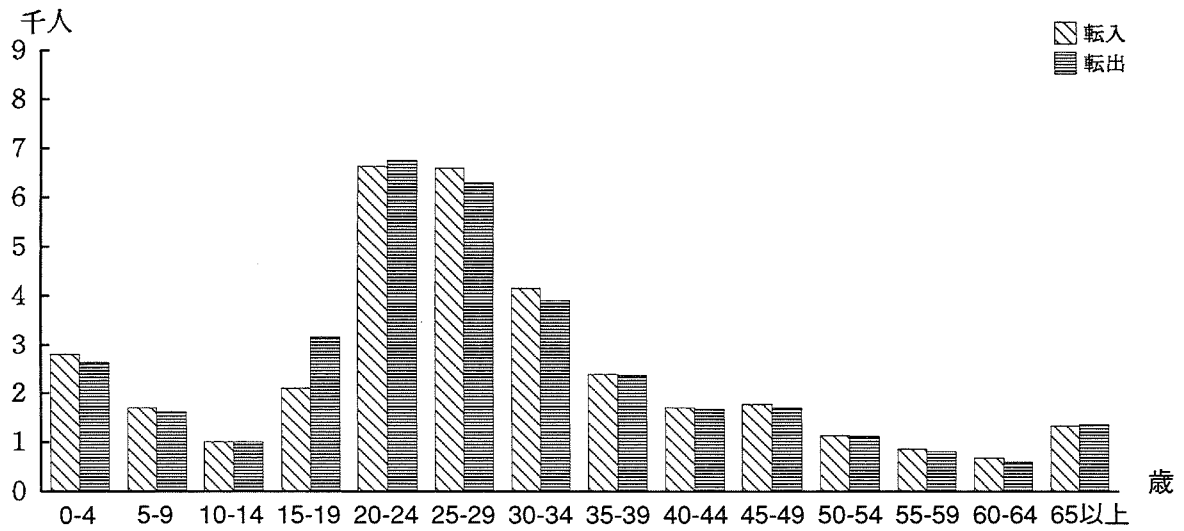
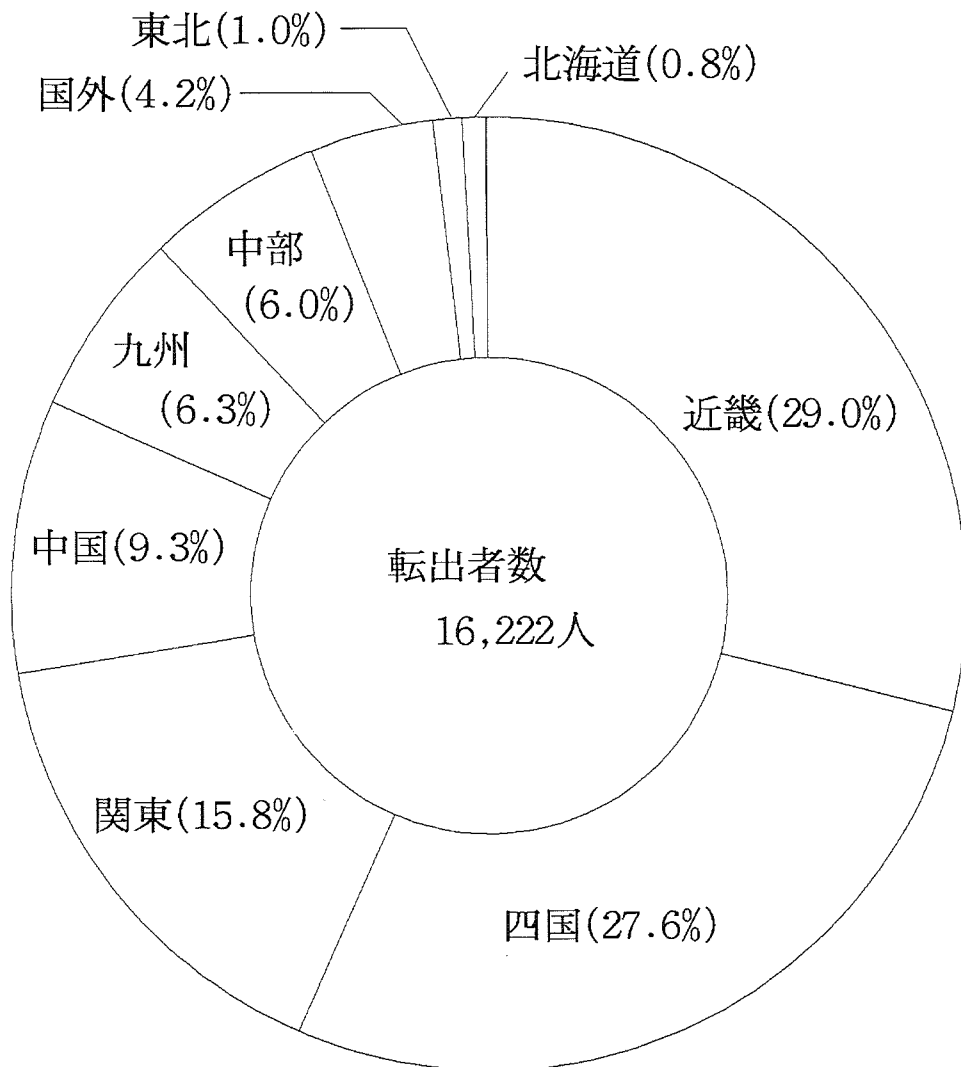


図4 県外ブロック別転出状況



注) 四国には徳島県は含まれない。

表5 年齢階級別転入・転出状況の推移

(単位：人)

	6 1	6 2	6 3	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	
総 数	転入	33,214	33,442	33,163	32,188	33,481	32,560	33,336	33,760	34,471	35,101	34,966	34,878
	転出	35,486	35,209	35,160	34,837	35,817	34,314	34,395	34,067	34,676	34,194	34,481	35,055
	比較	△2,272	△1,767	△1,997	△2,378	△2,336	△1,754	△1,059	△ 307	△ 205	907	485	△177
0～14歳	転入	6,132	6,467	6,363	5,856	5,891	5,465	5,648	5,612	5,628	5,603	5,550	5,509
	転出	5,881	6,249	6,184	5,903	5,655	5,095	5,276	5,172	5,335	5,098	5,242	5,278
	比較	251	218	179	△ 47	236	370	372	440	293	505	308	231
15～19歳	転入	3,156	3,487	3,729	3,337	3,383	2,765	2,726	2,666	2,411	2,409	2,226	2,107
	転出	5,134	5,201	5,394	5,055	5,262	4,520	4,293	4,032	3,649	3,343	3,066	3,156
	比較	△1,978	△1,714	△1,665	△1,718	△1,879	△1,755	△1,567	△1,366	△1,238	△ 934	△ 840	△1,049
20～24歳	転入	6,528	6,229	6,179	6,124	6,133	6,336	6,500	6,661	6,767	6,794	6,856	6,631
	転出	6,881	6,436	6,526	6,609	6,630	7,081	6,999	6,878	6,771	6,764	6,835	6,761
	比較	△ 353	△ 207	△ 347	△ 485	△ 497	△ 745	△ 499	△ 217	△ 4	30	21	△130
25～34歳	転入	8,841	8,690	8,391	8,324	8,773	8,949	9,135	9,495	9,688	10,139	10,363	10,741
	転出	8,919	8,699	8,481	8,552	8,893	8,683	8,819	8,982	9,242	9,506	9,830	10,213
	比較	△ 78	△ 9	△ 90	△ 228	△ 120	266	316	513	446	633	533	528
35～44歳	転入	3,867	4,033	4,006	3,988	4,333	4,274	4,358	4,231	4,319	4,217	4,251	4,104
	転出	3,894	3,940	3,975	4,006	4,336	4,198	4,099	3,928	4,142	3,918	3,985	4,045
	比較	△ 27	93	31	△ 18	△ 3	76	259	303	177	299	266	59
45～54歳	転入	2,066	2,132	2,067	1,936	2,148	2,066	2,285	2,485	2,826	2,789	2,841	2,918
	転出	2,142	2,202	2,136	2,130	2,190	2,070	2,285	2,432	2,784	2,724	2,738	2,830
	比較	△ 76	△ 70	△ 69	△ 194	△ 42	△ 4	0	53	42	65	103	88
55～64歳	転入	1,472	1,353	1,414	1,483	1,493	1,552	1,566	1,446	1,491	1,664	1,582	1,528
	転出	1,375	1,337	1,383	1,417	1,442	1,455	1,455	1,393	1,406	1,498	1,444	1,397
	比較	97	16	31	66	51	97	111	53	85 85	166	138	131
65歳以上	転入	1,152	1,051	1,014	1,140	1,327	1,153	1,118	1,164	1,341	1,486	1,297	1,340
	転出	1,260	1,145	1,081	1,165	1,409	1,212	1,169	1,250	1,347	1,343	1,341	1,375
	比較	△ 180	△ 94	△ 67	△ 25	△ 82	△ 59	△ 51	△ 86	△ 6	143	△ 44	△35

- 注) 1 各年1月～12月の移動状況である。
2 平成元年～3年については、日本人の状況である。